

全国の火山活動状況（1985年4月～6月）

気象庁地震火山部地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している精密観測4火山については、1985年4月以降6月末までの活動状況を、普通観測13火山とその他の火山については、火山情報、火山性異常の報告を受けたものについて状況を要約した。

全国火山活動概況を第1表に、火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表 全国火山活動概況（1985年4～6月）

Table 1. Volcanic Activity in Japan
(Apr. to Jun. in 1985)

Month Volcano	4	5	6
Sakurajima	▲	▲	▲
Asosan		▲	▲
Tokachidake		●	●
Suwanosejima			▲

▲ Eruption ● Anomaly

第2表 火山情報発表状況（1985年4～6月）

火 山 名 情 報	桜 島	阿 蘇 山	浅 間 山	伊 豆 大 島	雌 阿 寒 岳	十 勝 岳	樽 前 山	有 珠 山	北 海 道 駒 ヶ 岳	吾 妻 山	安 達 太 良 山	磐 梯 山	那 須 岳	草 津 白 根 山	三 宅 島	雲 仙 岳	霧 島 山
定 期	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
臨 時	4	4				3											
火 山 活 動																	

桜 島

月別噴火回数、地震回数は第3表のとおりで、引き続き活発な活動が続いており、4月と6月には、爆発に伴う噴石により家屋の屋根、自動車のフロントガラスの破損などの被害が発生した。また、鹿児島市街地への降灰日数、降灰量が増加し、特に、鹿児島地方気象台屋上で観測した4月10日09時における日降灰量は $1,608 \text{ g/m}^2$ となり、降灰量の観測を開始して以来の最高値となった。このため、鉄道のポイント故障、視程障害による交通渋滞等の交通障害が発生した。

第3表 桜島火山観測資料

月	4	5	6
噴 火 回 数	40(37)	11(10)	34(33)
地 震 回 数	6,580	2,755	5,205
微動継続時間合計(h)	127	24	98

()内：爆発回数 地震回数：B点(地震+微動)

主な爆発とその状況は次のとおり。

- 4月9日18時27分の爆発は、噴煙を連続的に噴出し、強い火山雷を伴いながら鹿児島市街地に流れ、多量の降灰があった。このため、視程障害等により交通渋滞が続いた。また、国鉄西鹿児島駅構内のポイントが接触不良となり、列車の発着に遅れがでた。なお、気象台における10日09時の日降灰量は $1,608 \text{ g/m}^2$ となり、昭和59年6月14日の $1,080 \text{ g/m}^2$ を上回り、降灰量観測開始(昭和44年4月)以来の最高値となった。
- 4月13日07時22分の爆発は、多量の噴煙を噴出し、有村町一帯に最大径1cmの火山礫が落下して被害が発生した。
鹿児島市消防局東桜島分遣隊、鹿児島中央警察署の調査によると、車5台のフロントガラスの破損、古里町で車のスリップ事故1件があった。
- 6月8日13時16分の爆発により、中量の噴石が4合目まで飛散し、一部が火口の南々西約2.8kmの東桜島町湯之の登山道に落下し、アスファルトの路面に直径約1mの穴を生じた。
- 6月13日00時11分の爆発は鳴動や火山雷を伴い、多量の噴石が4合目まで飛散した。強風(鹿児島上空1,500m付近で12日21時東北東20m/s、13日03時東北東13m/s)のため、桜島西側の赤水から野尻にかけて最大径3cmの火山礫が降り、被害が発生した。桜島町役場、東桜島消防分遣隊の調べでは、車12台のフロントガラス、屋根の太陽熱温水器26台が破損した。また、噴煙が鹿児島市街地に流れて多量の降灰があり、市交通局的調べでは、市電の踏切11箇所で遮断機が故障した。また、京都大学桜島火山観測所の調査によると、火口から北北東に約3km離れた北岳斜面4箇所に噴石が落下し、当日の午後まで蒸気を上げていた。
- 6月16日11時47分の爆発は、鳴動を伴い多量の噴石が3合目まで飛散し、一部が火口から約3.2kmの東桜島町湯之のびわ畑に落下し、直径約4m、深さ約0.8mのすり鉢状の穴ができた。
- 6月22日10時29分の爆発により、多量の噴煙が3,500mの高さに上昇し、北東に流れた。空振は

宮崎市、都城市でも感じられ、古里町の改新小学校の図書室出入口のガラスが割れた。また、高免町に最大径1cmの火山礫が降り、走行中の車1台のフロントガラスが割れた。

- 6月30日11時21分の爆発により、野尻町の国道から火口側に500m程離れたさといも畑に噴石が落下し、直径約3.7m、深さ約1.0mのクレータが、また、陸稲畑に直径2.0m深さ0.8mのクレータが生じた。噴石の大きさはいずれも不明である。

また、持木登山道のアスファルト道路に直径25cmの噴石が落下し、路面に直径30cm、深さ15cmの凹みが生じた、また、噴石により野尻町で畜舎のスレート屋根2箇所直径5cmの穴が開いた。東桜島町には、直径2cm位の礫が降り、自動車1台のフロントガラスが割れた。

阿 蘇 山

4月に入ってからの中岳第1火口の表面活動は、852火孔から火山灰を含んだ噴煙活動が続き、火口底内かなりの灰が積り、火口底の凸凹が少なくなり、4日14日まで火口底の一部に残っていた湯だまりも16日には消滅していることが観測された。また、25日に852火孔から高さ30m位に達する火炎が観測された。

5月5日夜から6日早朝にかけ小規模な噴火が起り、6日10時30分の火口観測では、これまで火山灰を噴出し続けていた852火孔の東側7～8m位の場所に新しい火孔(853火孔)が開口(直径10m位)し、拳大から人頭大の噴石を連続的に高さ50m位まで噴き上げているのが観測された。8日早朝の観測では、852火孔は閉塞状態となり、851火孔と同様に極少量の白煙を上げる程度となっていたが、15日15時すぎ852火孔と853火孔の間の壁が崩れ、両火孔が合体して直径40m位の火孔(853火孔)となった。また、15日以降の噴石にはスコリアと思われるものが多く含まれるようになり、30日には噴石がほぼ火口縁の高さまで噴き上げられた。(火孔からの高さは120m位となる)

6月に入っても853火孔からの火山灰混じりの噴煙の噴出と噴石活動が続き、中旬までは断続的に赤熱状のスコリアを噴出した。噴火活動に伴い、853火孔は一段と拡大してすり鉢状となった。15日には拳大から人頭大の噴石を、火口底から30m位に噴き上げていた。21日から降り出した大雨により、853火孔内かなりの雨水や土砂が流れ込み、23日の遠望観測では灰褐色の噴煙が観測され、24日以降853火孔は閉塞状態となった模様である。

4～6月に山上の測候所で観測した降灰日数及び月降灰量は第4表のとおりである。

火山性地震回数・孤立型微動回数・火山性連続微動平均振幅の月別推移は第5表のとおりである。火山性地震は4月から5月にかけて増加し、孤立型微動には変動がみられた。

第4表 山上の測候所で観測した降灰日数及び月降灰量

	4月	5月	6月
降 灰 日 数	10日	7日	13日
月 降 灰 量	1,062 g/m ²	5,939 g/m ²	1,429 g/m ²

第5表 阿蘇火山観測資料

月	4	5	6
地震回数	54	80	37
孤立型微動回数(0.5 μ 以上)	1,670	2,269	1,470
連続微動平均振幅 (μ)	0.3	0.4	0.3

浅間山

各観測点の地震回数は第6表のとおりで、地震活動は引続き低調であった。また噴煙活動は全期間をとおして噴煙の色は白色、噴煙量の最大は3(中量)、噴煙の高さの最高は900mであった。

第6表 浅間火山性地震回数

月 観測点	4	5	6
A	8	14	3
B	131	207	220
C	70	139	153
D	8	11	7
E	42	59	53

5月15日の火口観測の結果は次のとおりである。

火口底東側中央部がすり鉢状に深くなり、底部に崩落岩片が堆積し、火口壁東側上部から白色の噴気が出ていた。噴気量は前回(1984年5月24日)と比べ、やや少なかった。火口壁東側上部に分布する数箇の噴気箇所を、赤外線放射温度計で測定した結果、全般的に70～80℃で、最高は106℃であった。火口内には、この他火口壁東側に2箇所、火口壁西側に1箇所噴気点が認められたが、いずれも噴気音は聞こえず、また、火口底には硫黄の付着が認められた。風下ではガス臭が強かった。火口底の深さは前回とほとんど変化はなく、約200mと推定された。

5月23日、浅間山周辺の湧水の水温、pH測定を実施したが、特に異常は認められなかった。

伊豆大島

各観測点の地震回数は第7表のとおりである。6月14日大島及びその付近で発生したと推定される地震が多数観測されたが、いずれも無感であった。有感地震は、4月14日17時39分測候所で震度Ⅰを観測した地震だけである。

火口の現地観測は、4月2日、6月5日に実施したが、火口内にうすい噴気が充満しているのみで、特に変化は認められなかった。また、時々火口壁が少しずつ崩れ、落石の音及びうすい土煙りが立ち昇るの

が見られた。

第7表 伊豆大島火山性地震回数

観測点 \ 月	4	5	6
A	1	14	3
B	3	16	9
C	3	21	26

雌阿寒岳（釧路地方気象台 5月29日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	25	33	23	21	1	79

雌阿寒岳の現地観測を5月27・28日実施した。

結果は次のとおり。

(1) ポンマチネシリ（本峰）

第4火口では、噴気活動が活発で、火口縁辺には熱泥等の飛散した形跡が認められた。火山ガス及び地中温度等には、大きな変化は認められなかった。

(2) 中マチネシリ火口群

各噴気孔とも活発な噴気活動を続けており、火口全体が噴煙におおわれていた。
気象台からの遠望観測では、噴煙量等に変化は認められなかった。

十勝岳（旭川地方気象台 5月29日、30日・6月10日、21日火山情報）

火山性地震回数の月別推移は次のとおり。5月上旬にやや多くの地震が発生した。

月	1	2	3	4	5	6
回数	4	29	16	11	32	8

十勝岳の現地観測を5月29日、5月30日、6月8～9日、21日に実施した。

結果は次のとおり。

(1) 62-I 火口

5月29日10時、十勝岳火山観測所からの遠望観測により、火口壁から噴煙とともに灰黒色の泥水らしきものが、高さ5m位に噴き上げられているのを認めた。15時の現地観測によると、泥水の噴出音らしき音を確認したが、視界不良のため火口内の状況を観測することができなかった。

30日12時の現地観測によると、東壁中央部に長径10mの楕円形状の新しい噴気孔が生成されて

いるのを確認した。この噴気孔から泥水が最高時で高さ5 m位に噴き上げていた。

6月8～9日の現地観測によると、新しい噴気孔からの泥水の噴き上げは止まっていた。しかし、東壁の噴気活動は続いており、特に、新しい噴気孔では噴気音を伴っていた。地中温度では300℃を越える高い状態が続いている。

6月19日15時ころ、新しい噴気孔から黒灰色の噴煙の噴出が始まり、一時100 mの高さに上昇したが、翌朝5時にはおさまっていた。

6月20日の現地観測によると、火口周辺に極少量の降灰の跡が認められた。

20日、21日、22日の夜、十勝岳火山観測所付近等で、山の方が薄赤く光る現象が見え、特に20日が最も強かった模様で、美瑛町からも見えた。21日夜、北海道大学・勝井教授が火口付近で観測した結果、硫黄が溶けて流れながら燃えていることが確認された。また、20日夜、東壁に長径15 m位の新しい噴気孔が生成された。

(2) 62-II火口

引続き活発な噴気活動を続けている。

(3) 安政火口

大小多数の噴気孔が活発な噴気活動を続けている。

樽前山（苫小牧測候所 5月31日火山情報）

樽前山の現地観測を5月28～29日に実施した。

結果は次のとおり。

A火口及びその他の噴気孔群の噴気活動に異常は認められず、噴気温度・地中温度ともに昨年秋と同じか若干低くなっていた。また、測候所からの遠望観測では、噴煙量等に変化は認められなかった。

火山性地震月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	15	13	7	3	2	3

有珠山（室蘭地方気象台 5月21日火山情報）

火山性地震の月別推移は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	15	12	11	7	4	6

有珠山の現地観測を5月15～16日に実施した。

結果は次のとおり。

(1) 有珠山

銀沼火口、I火口及び小有珠南東斜面等では、活発な活動が続き噴気温度が600℃を越える場所がある。南外輪の外側で噴気量の増加した箇所が認められたが、噴気温度には変化がなく、その他の外輪山や北屏風山の地熱地帯には変化は認められなかった。

(2) 昭和新山・四十三山

特に変化は認められなかった。

気象台からの遠望観測では、噴煙量等に変化は認められなかった。

北海道駒ヶ岳（森測候所 5月25日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	0	1	2	3	1	1

北海道駒ヶ岳の現地観測を5月22～23日に実施した。

結果は次のとおり。

(1) 昭和火口、安政火口では弱い噴気活動が続いている。

(2) 明治火口、大正火口付近の噴気地帯では、噴気温度、地中温度ともに90℃以上となっていた。

各観測点とも前回（昨年10月）の観測と比べ、噴気量、噴気温度及び火山ガス成分には大きな変化は認められなかった。

測候所からの遠望観測では、噴気量等に変化は認められなかった。

吾妻山（福島地方気象台 7月2日火山情報）

吾妻山の現地観測を6月18日、26日に実施した。

結果は次のとおり。

前回（昨年10月～11月）の観測と比べ、各観測点ともに異常は認められなかった。

気象台からの遠望観測では、噴煙量は少量であった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	3	1	6	3	7	7

安達太良山（福島地方気象台 6月26日火山情報）

安達太良山の現地観測を6月12～13日、25日に実施した。

結果は次のとおり。

沼ノ平西側の登山道の近くで、新たに弱い噴気の発生している場所が確認され、付近の地熱の上昇、有害成分を含む火山ガスの発生も認められた。また、土湯峠付近の観測点の一部に温泉の湧出量のやや増加、新たな湧出箇所が認められた。その他の観測点では、特に異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	1	2	3	2	2	1

磐梯山（若松測候所 6月15日火山情報）

磐梯山の現地観測を6月4～5日に実施した。

結果は次のとおり。

前回（昨年10月）の観測と比べ、各観測点とも異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	4	5	5	11	11	7

那須岳（宇都宮地方气象台 6月7日火山情報）

那須岳の現地観測を5月30～31日に実施した。

結果は次のとおり。

前回（昨年10月）の観測と比べ、各観測点とも異常は認められなかった。

那須岳火山観測所からの遠望観測では、噴煙量は少～中量、色は白色で変化は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

5月6日22時52分ころから7日08時42分ころにかけ、火山性地震が多発し、6日夜那須岳周辺で震度Ⅱと推定される有感地震が1回あった。

月	1	2	3	4	5	6
回数	19	13	25	35	54	22

草津白根山（前橋地方气象台 6月13日火山情報）

草津白根山の現地観測を6月3日、7日に実施した。

結果は次のとおり。

前回（昨年9月）の観測と比べ、異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	7	3	7	14	10	14

三宅島（三宅島測候所 6月12日火山情報）

三宅島の現地観測を6月7日、11日に実施した。

結果は次のとおり。

前回（今年3月）の観測と比べ、雄山噴気地帯の噴気温、地中温度は若干上昇が認められたが、噴気量はやや減少し、火山ガス分析では炭酸ガス以外は観測されなかった。

新鼻にできた新しい火山碎屑丘の地中温度の一部に、高温部が認められた。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	9	7	7	2	4	2

雲 仙 岳（雲仙岳測候所 4月10日火山情報、測候所からの連絡）

昨年11月以降、地震は日を追って減少を続け、有感地震は殆んどなくなったが、5月18日頃、30日頃、6月16日頃の3回にわたり、群発地震活動があった。測候所における震度の最大はⅡであった。震源域は、昨年8月の地震活動とほぼ同じ所で、橘湾であった。

総地震回数と有感地震回数の月別推移は次のとおり。

月	1984/7	8	9	10	11	12	1985/1	2	3	4	5	6
有感地震回数	12	409	33	31	11	6	0	1	2	0	5	17
総地震回数	676	6,370	871	929	546	191	149	67	84	59	235	234

4月9日に雲仙地獄、小浜温泉の現地観測を行なった。主な地点の観測結果は次の通りであり、特に変化は認められなかった。

観 測 地 点	泉 温	噴気温	地 温	pH
大 叫 喚 地 獄	94℃	97℃	80℃	1.9
清 七 地 獄	94	97	98	2.2
小 浜 地 獄	100	—	—	8.4

6月6日、雲仙地獄の臨時現地観測を行った。大叫喚、お糸、八幡、清七の温泉・噴気等に変化はなかった。

霧 島 山（鹿児島地方气象台 5月7日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	5	2	5	4	8	8

霧島山の現地観測を4月19日、25～26日に実施した。

結果は次のとおり。

(1) 新燃岳

山頂火口内の第6火孔の噴気温度は177℃で前回（昨年12月）より22℃低くなっており、噴出力や噴気音には変化は認められなかった。

外壁火口群の第2火口は155℃で、噴気孔の形状にも変化は認められなかった。北側火口縁の弱い

噴気地帯は、外側斜面に拡大し、群生している「みやまきりしま」の一部が枯死しているのが認められた。

(2) 高千穂御鉢火口及び霧島山周辺の地熱地帯、噴気地帯、温泉等には異常は認められなかった。

諏訪之瀬島

1985年6月28日 爆発（全日空113便の情報による）

海底火山（本誌19ページ及び海上保安庁水路部の第35回火山噴火予知連絡会資料による）

福徳岡の場

変色水視認（2月14日，3月15日，4月17日，5月14日，6月14日）